

現代短歌分類辭典

第百三十六卷

津 端 亨 編 纂

津 端 亨 編 纂

現代短歌分類辭典

第一三六卷

現代短歌分類辭典

136

昭和六十年九月二十日発行 定価二、四〇〇円

著者発行
兼印刷者

津 端 亨

〒111 東京都台東区鳥越一―十一―八

発行所 現代短歌分類辭典刊行所

代表 津 端 亨

振替 東京 三一九三一―四番
電話 〇三(八五二)九八六九番

目

次

(第百三十六卷)

煙突	一五	延年の舞	三
煙突	一	役の行者	三
煙突	一	塩ビニール	三
煙突	一	炎熱	三
煙突	一	縁の下	三
縁どほき	一五	役の小角	四
艶なり	一五	鉛白	四
艶なりし	七	燕麦	四
艶なる	七	縁端	六
艶に	七	縁鼻	七
縁日	三	鉛筆	七
艶女	一	鉛筆絵	七
ennu	一	燕尾服	三
炎熱	八	閻浮提	三

閻浮檀金	三	三	煙霧	七	四三
えんぶり	一	三	縁結び	四	四三
エンプレス号	一	三	洊明	三	四三
塩分	一	三	延命地藏	一	四三
援兵	一	三	延命町界	一	四三
掩蔽壕	一	三	延命寺	一	四三
掩蔽灯火	一	三	延命一心丸	一	四三
閻魔	三	三	えんやらき	二	四三
煙幕	九	三	閻羅王	一	四三
えんまこほろぎ	二〇	三	厭離庵	四	四五
閻魔像	一	四	厭離執着	一	四五
閻魔台	一	四	延曆	二	四五
閻魔大王	三	四	延曆寺	二	四五
閻魔堂	一	四	延曆寺象	一	四五
閻魔堂橋	一	四	延陵	一	四六
エンマ・ボワリイ	一	四	えんりよがちに	一	四六
延命	一	四	塩嶺	一	四七

おいおとろへーて
 老面
 おいかがみ
 老柿
 おいかげ
 老櫟
 おいがたき
 おいかちさびーぬ
 老川村
 老楓
 老蛙
 おいかまさきり
 おいーがーみ
 老木
 おいーき
 老樹無花果
 老きくす

一
 一
 一
 三〇
 四
 二
 二
 九
 一
 一
 一
 一五
 二
 三
 一
 一
 一

一〇
 一〇
 一〇
 一〇
 一四
 一四
 一三
 一三
 一三
 一三
 一三
 一三
 一三
 一三
 一五
 一五
 一五

老い木立
 老樹桜
 老木さざんくわ
 おいきさびーたる
 おいきーし
 老木椎
 老いきたり
 老いきーたる
 老狐
 老木満天星
 老木林
 老木彫師
 おいきまつばき
 おいきれーぬ
 おいくさく
 老楠
 老朽

一
 三
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一〇
 一

一五
 一五
 一五
 一五
 一五
 一五
 一五
 一五
 一五
 一五
 一五
 一五
 一五
 一五
 一五
 一五
 一四

老朽桜

おいくちーし

おいくちーて

おいくちーにーけり

おいくちーぬ

おいくちよ

おいくづをれーて

おいくねる

老い首

老い胡桃

おいくれーぬ

お池

御池通り

おいけの浜

おいーけむ

おいーけらし

おいーけり

二 二

一五 一五

おいーける
おいーけれーど
おいーけん
老いごころ
老木立
おいこまーんーかーと
老い込み
おいこみーて
おいこむ
老頃
老佐賀人
老先
老桜
おいさけーる
おいーさす
おいさせーて
おいさび

四 一 一 一 九 三 一 一 一 二 二 一 六 五 一 一 四

一五 一五

おいしいーと
おいしそう
おいしそうなり
老舌
おいしづまらーむ
おいーしーと
おいーしーとーぞ
おいーしーとーは
おいーしーとーも
おいーしーに
おいーしにーにーけむ
おいーしにーや
おいーしーは
おいしぬ
お石の奈屋
オインバ

— — — — —
一九六 一九五 一九五 一九五 一九五 一九五 一九四 一九四 一九四 一九三 一九二 一九一 一九

お皺腹	一	一九
老椎	一	一九
老姉妹	一	一九
おいしみ	二	一九
おいーしむ	四	一九
おいーしむ	二	一九
おいーしむーな	一	一九
おいーしむーべからーず	一	一九
おいーしめ	一	一九
おいーしめーし	一	一九
おいーしめーにーけり	二	一九
お医者	一	一九
老生涯	一	一九
生石嶺	一	一九
おいーしーよ	二	一九
おいーじーよ	一	一九
おいーしーや	一	一九
おいーしーよーと	一	一九

おいしらふ	一	一九	老杉山	一	二〇
老尻	一	一九	おいざーけり	一	二〇
おいしれーし	一	二〇	おいすさび	一	二〇
おいしれーし	一	二〇	おいざーとて	一	二〇
おいしれーて	一	二〇	おいざーとて	一	二〇
おいしれびと	一	二〇	おいすみーし	一	四九
老皺	一	二〇	おいざーも	一	四九
おいしわむ	一	二〇	おいせーざりーけり	一	四九
おいーしーを	二	二〇	おいせーざるーべき	一	四九
おいーず	三	二〇	おいせーざるーらむ	一	四九
老杉	空	二〇	おいせーず	一	二〇
老杉木立	一	二〇	おいせーず	二	二〇
老杉並木	一	二〇	おいせーぬ	四	二〇
おいすぎーにーけり	一	二〇	おいせばめーられ	一	二〇
老杉道	一	二〇	御伊勢詣	三	二一
老杉村	二	二〇	老蘇	一	二一
老杉森	一	二〇	老疎開人	一	二一

老祖母

おいそめーし

おいそむる

おいそめーし

おいそめーつ

おいそめーて

おいそめーにーけり

おいそめーむ

おいそろふ

おいーた

おいーたく

老匠

おいたけーて

おいたてーる

置賜

置賜の郡

おいーたまひ

二 一 二 三 四 一 一 一 一 一 二 七 一 二 二 五 一

二六 二六 二六 三六 三五 二五 二五 二四 二四 二四 二三 二三 二三 二三 三一 三一 三一

おいーたまひーけり
おいーたまひーける
おいーたまひーし
おいーたまひーたり
おいーたまひーたる
おいーたまひーつる
おいーたまひーにーし
おいーたまふ
おいーたまふーなり
おいーたまふーらし
おいーたまへーども
おいーたまへーり
おいーたらーず
おいーたらーむ
おいーたり
おいーたり
おいーたり(倒置法)
おいーたりーし

一 三 四 一 一 二 一 一 一 一 四 一 一 四 八 二 二 二

三六 三五 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三九 三九 三九 三八 二七 二七 二七

おいーたりーと	四	三六	おいづきーたれーど	一	二六
おいーたりーや	一	三六	おいづきーて	三六	二六
おいーたる	一四	三六	おいづきーにーけり	五	二五
おいーたるーらし	一	三六	おいづきーにーける	一	二五
おいーたれーど	一	三六	おいづきーぬ	一	二五
おいーたれーば	五	三九	おいづきーぬーらし	二	二五
老父	四	三九	おいづきーましーぬ	一	二五
老父君	一	四三	おいづく(終止形)	三	二五
老父母	二	四三	おいづく(連体形)	三	二五
おいーつ	五	四四	おいづくーか	一	二五
老樹	一	四四	おいづくーな	一	二五
おいづかーむ	三	四四	おいづくーや	一	二五
老柳	七	四五	おいづくーまでーに	一	二五
おいづぎ	一	四六	おいづくーまでーは	一	二五
おいづきーし	二	四六	おいづくーらしーも	一	二五
おいづきーたまふ	二	四七	おいづくーらん	一	二五
おいづきーたり	二	四八	おいづくーを	二	二六

置いて
 老いーて
 (に) 於て
 老連れ人
 老鶴
 おいーつる
 おいーつらむ
 老夫
 老妻
 老夫
 老夫
 おいつはもの
 老椿
 おいーつつ
 おいづけーる
 おいづけーり
 おいづけーど

三九〇 一 一 一 二 一 二 九 八 一 三 三 五 一 二 一

三〇五 二七三 二七三 二七三 二七三 二七三 二七三 二七三 二七三 二七三 二六〇 二六〇 二六〇 二五九 二五八 二五八

於て
 おいで
 おいてく
 おいてけぼり
 おいてつて
 おいーてーは
 おいーてーも
 おいどうだん
 老研師
 老研屋
 老年
 老刀自
 老いどち
 おいとほる
 おいどん
 おいーな
 おいなえーし

一 二 一 一 二 六 一 一 一 二 一 一 一 二 一 二 三

三二 三一 三一 三一 三一 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇

老の影 老の足 老の君 老の坂 老の坂越え 老の坂道 御命 老の手
 老鼠 老猫 老の年波 老の友 老の波 及能博士 老の日 老の身 老の世 老の齡 老の終 お岩 老葉 お岩役者 老白蘭 おいはつ おいはつーらむ おいはつる おいはてーし

一 六 一 二 四 三 六 一 一 一 九 四 一 一 一 九 一 一 三 八

三三 三三 三三 三三 三三 三三 三五 三三 三三 三三 三三 三七 三七 三三 三三 三三 三三 三八 三八

老の年波 老の友 老の波 及能博士 老の日 老の身 老の世 老の齡 老の終 お岩 老葉 お岩役者 老白蘭 おいはつ おいはつーらむ おいはつる おいはてーし

一 二 二 一 三 五 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 二 二

三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇 三二 三二 三二 三二 三二 三二 三二 三二 三二 三二 三八 三八

老母	おい	はて	て
	おい	はて	に
	おい	はて	む
			つ
			つ

合	四	一	一	八
計				
三、八八一	三、五〇	三、四九	三、四九	三、四九
首				